

二〇一八年度 早稲田大学大学院文学研究科 入学試験問題
 【修士課程】 一般外国語 日本語 ※解答は別紙(縦・横書)

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(この文章は一九九九年に発表されたものです。)

近頃、学校では「個性尊重」の教育の重要性が声高に唱えられている。たとえば、近年文部省が推進している「新しい学力観」というものの中にも、子供の個性の尊重が強調されている。その方向性自体は、既に臨時教育審議会の答申に盛り込まれた考え方にはかならない。教育の「多様化・自由化・個性化」の一環として示されていることである。それは行政における「規制緩和」、経済における「(金融)ビッグバン」などの自由化路線と①軌を一にした教育の自由化路線である。これを「教育のビッグバン」と呼んだり、また明治初期、戦後改革に続く「第三の教育改革」に位置づける考え方もあるほど大きな改革である。子どもの一人一人の個性を尊重して、その②発達をはかろうというのだから、それ自体としては大いに③ケツコウなことにように見える。しかし、この「個性尊重」というのは、どうもまやかしのように私には思われてならない。

まず第一に、「個性」という概念がAでない。人間の個性とは何かについて、原理的、学問的、思想的にきちんと検討されたうえで示された概念とは思われない。

P あいまいである。第二に、Q 近代の学校教育は、一人一人の個性を育成する教育を行うようには、原理的に作られていない。学校は、近代の④ブンカした学問の体系に基づいて合理的に配列されたカリキュラムを、一定の時間に同じように教えることが要求されている。だから一斉教授と⑤ならざるをえない。一斉教授の方法で、数十人の子どもの個性をどのようにして育成するのだろうか。しかも、その教師と生徒の関係は、個人の意思によって相互に選択されたものではなく、Bによって規定された偶然的な関係である。したがって、両者の間に信頼の関係が前提になっていない。

また公教育は、教科の教育(知識の教育)のほかに、「国民をつくる教育」(国民教育)を必ず含み込んでいる。ここで「国民教育」というのは、国家が⑥国民を真に「国民」にするための教育のことである。たとえば、共通の自国語(国語)を教え、自国を意識の中心においた地理や歴史を教えるといったような、すべての子どもに国家を⑦ジメイの単位とした一定の意識の枠をうえつける教育である。近代の公教育(それは普通、義務教育として制度化される)は、本来的に「国民をつくる」国民教育をCさせているのだ。それは個性豊かな個人を育成する教育とは、原理的に対立する側面が強い。

このような近代教育の原則がDになっていながら、この学校において官民あがて「個性尊重教育」が声高に繰り返されるといえるのは、どういうことであろうか。一人一人の個性を尊重し、本気でその育成を考えているとは、私には思えない。E当事者は本気で唱えているのであろう。しかし、それを実際に額面通り推進していくなら

ば、おそらく現在の学校教育は成り立たなくなってしまうであろう。少なくとも、大きな困難に E するに違いない。

F をおそれず、はっきり言おう。いま声高に唱えられている「個性尊重教育論」は、いまの学校教育が ⑧ 陥つてしまった ⑨ カドの画一主義への反省をあらわす言辞に過ぎないのではないか。 ⑩ 画一化が極度に進められた学校教育のあり方に対する対抗言説として、「個性尊重教育」が語られ始めたのである。

さらにいえば、「画一主義」というのも、その実態は規律主義に基づく「管理主義」、要するに学ぶ子どもの主体性や能動性が ⑪ 欠如している状態を指している。 s こうした学校の画一主義と管理主義を緩和することが、彼らの「個性尊重教育」論の意味であると考えたほうがわかりやすい。したがって、そのために実際になされたことといえば、学校やカリキュラムの多様化を認め、それを選択するうえでの自由化が、 ⑫ 若干試みられた程度にすぎない。その t の到達点の一つが「単位制高校」の実現であるだろう。 ⑬ 学校教育で、本当に一人一人の個性を尊重する教育など、原理的にできないのだ。原理的にできないシステムなのに、それをできるかのように唱えるから、教師は苦しみ、学校はますますおかしくなる。 u 学校教育の機能をもっと小さく限定し、みんながそれぞれの場において何らかの形で子どもの教育に責任をもつよう、 ⑭ 工夫するほうが現実的ではないか。

今の学校教育は、教える側の論理と ⑮ 都合で組み立てられている。それは近代の学校教育の G であった。だから画一主義とならざるをえない。一斉授業の形態がそれを象徴している。

とすれば、 ⑯ アンイにあいまいな「個性尊重教育」を唱えるよりも、学校教育のうちに、いかに学習する側の論理を持ち込み、それで学校を再編するか、その方向で検討する努力がまず先なのではあるまいか。もとより、同年齢で輪切り状に区切られた学年制や学級単位の編成も、根本から考え直す必要があるだろう。実際にはどのようにすればいいのか、それはこれから知恵を出し合って考えていくことである。しかし、その際、いずれにしても、学ぶ側の視点から、学校のありかたや教科のカリキュラムを組み直すことが大事である。この視点の H がどこまで徹底できるかが、学校教育のかぎとなるであろう。また、日本の学習文化の ⑰ ケイフにおいて、一人一人の「個性」はいかにとらえられていたのか、この点も大いに検討されるべきであろう。実は、今日いうような意味での「個性」などは、 v 否定の対象であったはずだ。その「個性」に正当性を与える ⑱ コンキョが「自己」の内部に見いだせないから、その意味での「個性」は限りなく否定される。そのうえで、あるべき「型」に w 自己を近づけようとしていく過程として教育がとらえられてきた。それは今日では「型はめ」教育と批判される。しかし、問題は、その「型」のもつ思想性であり、それをいかに自己のうちに内在化できるか、という点にあるだろう。

(辻本雅史の文章による)

問一 傍線部①「軌を一にした」、②「殆達をはかるう」、⑤「ならざるをえない」は、それぞれどのような意味か、わかりやすく説明しなさい。

問二 傍線部③、④、⑦、⑨、⑬、⑭、⑮の片仮名の部分を漢字で書きなさい。

問三 空欄A、B、C、D、E、F、G、Hに入る最も適切な語を、それぞれ次のア～クの中から選び、その記号を書きなさい。(同じ記号を二度以上、使わないこと。)

ア 誤解	イ 宿命	ウ 制度	エ 前提
オ 直面	カ 転換	キ 内在	ク 明確

問四 空欄p、q、r、s、t、u、v、wに入る最も適切な語を、それぞれ次のア～クの中から選び、その記号を書きなさい。(同じ記号を二度以上、使わないこと。)

ア いたって	イ せいぜい	ウ そもそも	エ たいてい
オ つまり	カ ひたすら	キ むしろ	ク もとより

問五 傍線部⑥「国民を真に「国民」にするための教育」とはどのようなことか、「国民」と「「国民」」の違いがわかるように説明しなさい。(説明の中に「国籍」という語を用いること。また、後続の内容をそのまま抜き出さないで説明すること。)

問六 傍線部⑧、⑩、⑪、⑫、⑭、⑮の漢字の読みを平仮名で書きなさい。

問七 傍線部⑬「学校教育で、本当に一人一人の個性を尊重する教育など、原理的にできないのだ」とあるが、それはなぜか、本文の内容に即して、わかりやすく説明しなさい。

〔以下、余白〕

入学試験

その一

問

⑤	②	①

小計

問

⑬	③
⑭	④
⑮	⑦
	⑨

問

G	A
H	B
	C
	D
	E
	F

問四

v	p
w	q
	r
	s
	t
	u

受 験 番 号
氏 名

合計得点

問五

小計

問六

⑭	⑧
	って
⑮	⑩
	⑪
	⑫

問七

受験番号
氏名